基本目標
3

安全と安心が感じられるまち

日常のあらゆる場面で安全、安心を確保することは、市民生活を送るために不可欠な条件です。そのために、犯罪、交通事故、消費生活上のトラブルなどに的確な対策を講じ、これらを軽減していくことが必要です。

いつ発生するのか分からない自然災害に対しては、建物の防災性を高め、安全な避難場所や避難路の確保、治水対策など、災害に強いまちづくりを進めるとともに、危機管理体制の充実を図ります。さらに、市民一人ひとりが適切に判断、行動できるよう、防災意識を醸成するための取り組みを充実していきます。

また、厚木基地に関わる航空機の騒音、墜落事故の不安は、長年にわたって市民生活に影響を及ぼしてきました。これらの解決についても粘り強く取り組んでいきます。

大和市は、「健康創造都市」の実現に向けて、日常時だけでなく災害時においても市民の生命や財産を守り、安全と安心が感じられるまちづくりを推進します。

基本目標を実現するための個別の目標

個別目標 3-1

生活の安全性を高める

日常生活のあらゆる場面で安全性を高め、安心して地域で暮らせる環境をつくります。

個別目標 3-2

災害への対応力を高める

災害への対応力を高め、市民、事業者、行政の連携による災害に強いまちづくりを進めます。

個別目標 3-3

航空機による被害を解消する

厚木基地に関わる航空機問題の解消に向けた活動を継続します。

個別目標 3-1

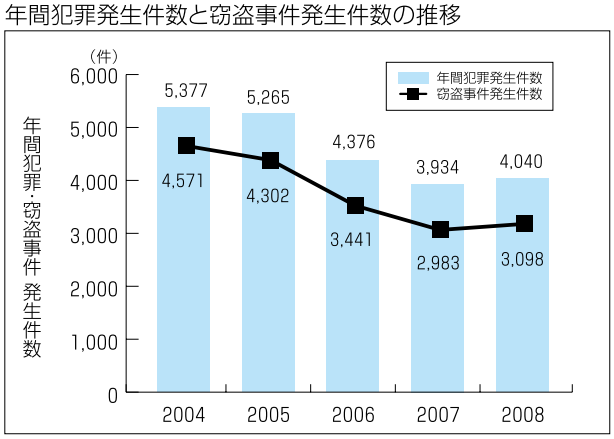
生活の安全性を高める

大和市の犯罪発生件数は以前に比べると減少していますが、自転車の盗難や空き巣などの窃盗事件の件数は、依然として高い水準にあります。犯罪の不安がないまちをつくるためには、警察など関係機関との協力はもとより、市民一人ひとりが防犯意識を高め、地域と行政が力を合わせて取り組んでいくことが必要です。

また、交通事故については、自転車利用者や高齢者の事故が多く、こうした事故を防ぐための対策が特に重要となっています。さらに、消費生活における安全性の確保についても、行政の果たす役割の重要性が高まっています。

大和市は、様々な場面で日常生活の安全性を高め、安心して地域で暮らせる環境をつくります。

年間犯罪発生件数と窃盗事件発生件数の推移



資料:神奈川県大和警察署（各年集計）

※家庭用品品質表示法
消費者が日常使用する家庭用品を対象に、商品の品質について事業者が表示すべき事項や表示方法を定めた法律です。

※消費生活用製品安全法
消費生活用製品による一般消費者の生命又は身体に対する危害の発生の防止を図り、消費者の利益を保護するための法律です。

※安全施設
交通事故の防止を図るために設けられる横断歩道橋、さく（ガードレール等）、照明施設などの施設をいいます。

1

めざす成果

犯罪の不安を感じることなく暮らしている

市民の防犯意識が高まり、地域の防犯活動が進む中で、窃盗などの犯罪にあうことが少なくなっています。

成果を計る指標

以前に比べて、大和市の治安は良くなったと思う市民の割合

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
34.8%	40.0%	50.0%

年間犯罪発生件数

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
4,040件	3,750件	3,500件

防犯パトロールを実施している自治会の割合

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
66.3%	70.0%	80.0%

2

めざす成果

安心して消費生活を送っている

食品や製品、サービスなどの消費に関する相談体制などが整っています。

成果を計る指標

消費生活相談の苦情件数のうち解決済みの割合

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
96.0%	97.0%	98.0%

家庭用品品質表示法※・消費生活用製品安全法※に係る立入検査による適正表示の割合

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
100.0%	100.0%	100.0%

3

めざす成果

交通事故の不安を感じることなく暮らしている

交通マナーや交通安全への意識が高まるとともに、安全施設※の整備が進み、交通事故の発生件数が減少しています。

成果を計る指標

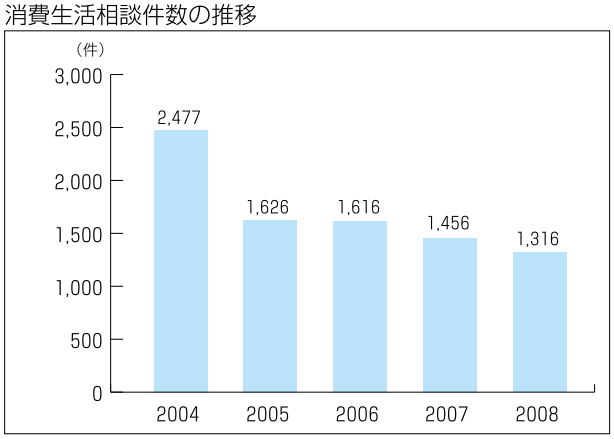
交通人身事故発生件数

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
1,499件	1,400件	1,300件

交通安全教室等参加者数（イベントを除く）

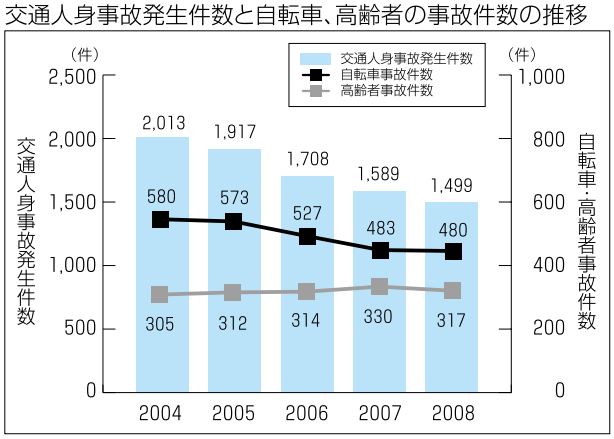
現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
18,640人	20,000人	22,000人

消費生活相談件数の推移



資料：市民相談課（各年度集計）

交通人身事故発生件数と自転車、高齢者の事故件数の推移



資料：神奈川県交通安全対策課（各年集計）

個別目標
3-2

災害への対応力を高める

地震、台風、火災などの災害や不測の事態から、市民の生命と財産を守っていくためには、市民、事業者及び行政が日頃から危機管理意識を持ち、被害を軽減するための予防の取り組みと備えをしておくことが必要です。

被害を最小限に食い止めるには、初動期における行政の対応だけでなく、市民一人ひとりの対応が大切であり、迷わず適切な判断と行動ができるように日頃の備えと訓練などの対策を講じておかなければなりません。また、災害時における要援護者※に対する支援が適切に行われる体制を整えていく必要があります。

大和市は、災害への対応力を高め、市民、事業者、行政の連携による災害に強いまちづくりを進めていきます。

※災害時における要援護者
高齢者や障がい者、乳幼児など、災害が発生した時、一人では情報を得たり避難することが難しく、手助けが必要な方々のことです。

※広域避難場所
大災害時に火災の延焼、火災の熱風や煙などから身を守るための安全が確保できる場所です。

※準用河川
河川法の二級河川に関する規定を準用し、市町村長が指定し管理する河川を言います。

※雨水整備率
市街化区域2007haのうち、公共下水道による雨水整備が完了している区域の割合です。

1

めざす成果

災害に対する危機管理体制が整っている

災害などに対して監視、情報収集を行い、適切な対応が行える体制が整っていて、緊急用の飲料水や食糧、医薬品などが確保されています。

成果を計る指標

地域で広域避難場所※が知られていると思う市民の割合

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
62.9%	64.4%	**65.4%**

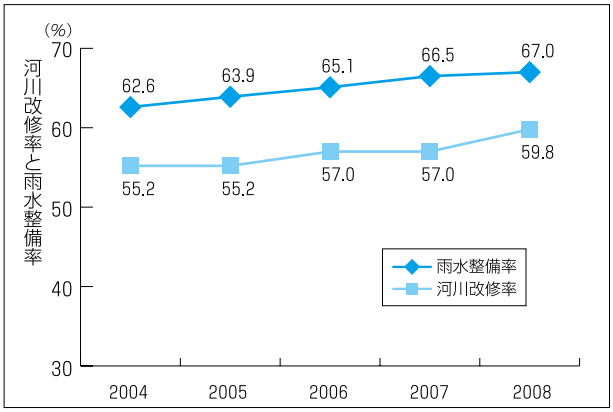
地域防災訓練を実施している自治会の割合

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
59.0%	63.0%	**65.0%**

非常食糧の備蓄率

現状値（2008）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
100.0%	100.0%	**100.0%**

河川改修率と雨水整備率の推移



資料:都市施設総務課（各年度末時点）

2

めざす成果

災害に対して強いまちになっている

地震や大雨が発生しても、大きな被害につながらないような施設整備などの対策が講じられています。

成果を計る指標

防災上重要な公共建築物の耐震改修率

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
92.0%	94.3%	**96.0%**

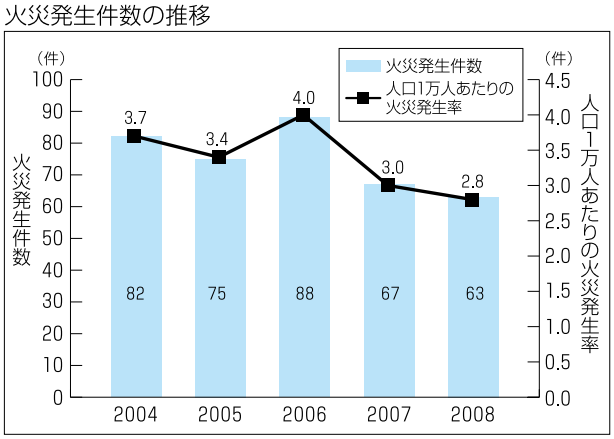
準用河川※引地川の改修率

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
57.0%	66.4%	**68.0%**

雨水整備率※

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
66.5%	68.0%	**69.0%**

火災発生件数の推移



資料:消防総務課（各年集計）

3

めざす成果

十分な消防力が整っている

迅速な消防体制、救急救命体制が維持され、火災や事故による被害が最小限に抑えられています。

成果を計る指標

火災発生率（人口1万人あたりの火災発生件数）

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
3件	2.7件	**2.6件**

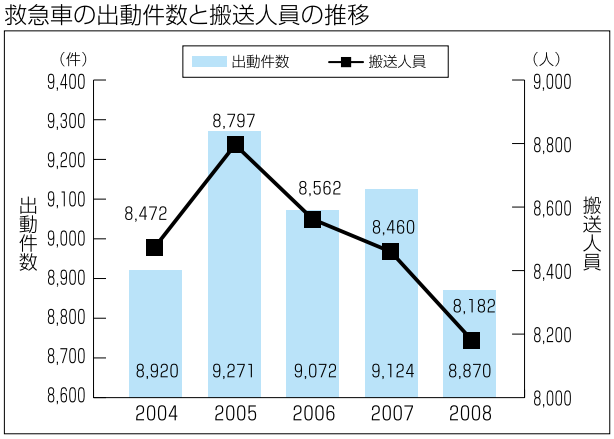
救命講習受講者資格取得者数（累計）

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
10,190人	16,190人	**19,190人**

救急車の現場到着までの所要時間

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
6.2分	6.2分	**6.2分**

救急車の出動件数と搬送人員の推移



資料:消防総務課（各年集計）

個別目標
3-3

航空機による被害を解消する

厚木基地は、全国に類例のない人口過密都市の中にある軍用飛行場として、基地周辺住民のみならず、広域にわたる多くの人々に対し、航空機騒音や事故の不安などを与えています。

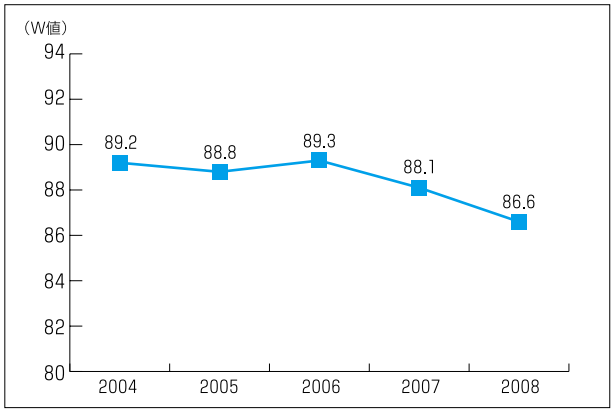
大和市は、これまでも、NLP※の硫黄島全面移転や基地開放日における展示飛行（デモンストレーションフライト）の廃止を求めるなど、その問題解決に向け全力で取り組んできました。引き続き、神奈川県や厚木基地周辺市などとの連携を図り、航空機問題の解消に向けた活動を展開していきます。

※NLP
夜間連続離着陸訓練と呼ばれる訓練です。FCLP（Field Carrier Landing Practice）と呼ばれる空母への着艦のための訓練のうち、夜間に実施されるものをNLP（Night Landing Practice）と呼んでいます。

1	めざす成果	航空機による被害のない生活を送っている 航空機騒音が低減されるなど、 基地に起因する被害の少ない生活を送っています。
	成果を計る指標	うるささ指数 （W値:WECPNL／加重等価継続感覚騒音レベル）※

現状値（2007）	中間目標値（2011）	目標値（2013）
88.1	逓減させるよう取り組みます	**逓減させるよう取り組みます**

厚木基地のうるささ指数（W値）の推移



資料:基地対策課（各年度集計）

※うるささ指数
WECPNL（Weighted Equivalent Continuous Perceived Noise Level／加重等価継続感覚騒音レベル）。ICAO（国際民間航空機関）で提唱された航空機騒音を総合的に評価する国際的な単位で、音響の強度及び頻度、発生時間帯、継続時間などの諸要素を加味し、夜間及び深夜における重みづけを行った航空機騒音の評価単位です。